

朝日新聞

2022年(令和4年)
3月18日
金曜日

兵庫の基金制度活用 「今後、市独自の仕組みを」

各地で野良猫の不妊去勢手術を進めている公益財団法人どうぶつ基金(兵庫県芦屋市)は17日、2021年に同基金の制度を活用した手術数が全国最多だったとして、宮崎市に感謝状を贈呈した。

猫不妊手術最多 宮崎市を表彰



宮崎市の清山知憲市長(前列右から2人目)に感謝状を手渡した佐上邦久・どうぶつ基金理事長(同3人目)＝17日、宮崎市役所

昨年実績は700匹

基金は、登録する348自治体の要望に対し、出張手術をしたり協力病院で使える手術チケットを発行したりしている。21年中の手術実績は全国で約5万匹。このうち宮崎市が700匹で最も多かった。

贈呈式では、市動物愛護促進議員連盟(上野悦男会長)のメンバーが見守る中、基金の佐上邦久理事長が清山知憲市長に感謝状を手渡した。清山市長は「助成をいただき、むしろ私たちが感謝しないと。地域のみなさんの地道な活動のおかげでもあり、大変ありが

たい」と述べた。

佐上理事長は「宮崎市には優れた獣医師がいるし、何よりもボランティアの質が高い。いずれは基金に頼らず、市独自に不妊手術をする仕組みを確立してほしい」と要望した。

県内では、日向市、日南市、国富町、美郷町、三股町、木城町、高千穂町も基金に登録。昨年実績では、日向市が全国6位、日南市が同10位だった。都城市も登録の準備を進めている。

基金は、今年の「猫の日(2月22日)」以降、手術数を増やすキャンペーンを展開し、目標とした累計22万2222匹の手術を達成したという。(佐藤修史)

みやまのち